

原発性非小細胞肺癌の治療のため診療を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター呼吸器外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	p0-pIA2 期非小細胞肺癌に対する肺区域切除術 10 年の治療成績
【研究実施期間】	実施許可日～2030年12月31日
【研究実施機関・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 呼吸器外科 研究責任者 濱武 大輔
【対象となる方】	2016年1月1日から 2025年12月31日に呼吸器外科にて 20mm 以下非小細胞肺癌の診療のため入院し、根治切除手術を受けた方 336 名
【研究の意義、目的、方法】	肺癌に対する肺区域切除は機能温存を目的とした縮小手術として行われている。わが国で多施設共同研究(JCOG0802)の適応を満たした区域切除術は肺葉切除術と同等の予後が報告され、区域切除に対する選択基準は少しずつ明確化されていると考えている。一般的に 20mm 以下のスリガラス陰影を伴う末梢小型肺癌を対象としているが、高齢者や心肺機能低下の患者などでは区域切除を消極的に選択せざるを得ない事も経験する。今回浸潤径 20mm 以下の非小細胞肺癌に対する区域切除の治療成績・予後を検討する。
【利用する情報の種類】	非小細胞肺癌の診療に関する診療記録、臨床検査データとして病理検査結果、血液検査結果(血算・生化学・腫瘍マーカー)、診断用画像(胸部 CT、胸部レントゲン) 手術時に作成された病理組織標本:切除肺(肺葉切除、区域切除)の腫瘍部位および正常部位
【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者: 呼吸器外科 濱武 大輔 住所:〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号:092-943-2331 (代表)